

2025年10月5日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎  
(コード番号：4572)  
問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美  
(TEL： 078-302-7039)

CDC7阻害剤monzosertibの血液がん治療用途に係る欧州における

特許付与予定通知受領のお知らせ

当社が開発中のCDC7阻害剤monzosertib (AS-0141) を用いた血液がん治療用途の発明（発明の名称：Methods of Treatment of Cancer Comprising CDC7 Inhibitors、出願番号：19866944.2）が、欧州特許庁の審査を受けた結果、特許権を付与するに値すると判断され、特許付与予定通知（Intention to Grant, Rule 71(3)）を受けましたのでお知らせいたします。この後、一定の手続きを経て、特許登録となります。

本発明は、monzosertibの新たな投与方法（用法）および投与量（用量）を見出したことを特徴とするがんの治療方法に関しますが、欧州では、現在臨床試験中のAML（急性骨髄性白血病）を含む血液がん治療用途の特許性が認められました。今回の欧州の他、既に米国（特許12533353号）、日本（特許7579781号）、オーストラリア（特許2019350581号）でも同様の特許が成立済みです。

また、欧州におけるmonzosertibに関する物質特許は既に成立しており、本特許が追加されることでmonzosertibの特許ポートフォリオがより充実します。

当社は今後も開発品の特許ポートフォリオの強化に積極的に取り組んでまいります。

以 上

CDC7阻害剤monzosertib (AS-0141) について

monzosertib (AS-0141) は当社が創製したCDC7キナーゼを選択的かつ強力に阻害する経口投与可能な医薬品候補化合物です。

CDC7 (cell division cycle 7) キナーゼは、DNA複製開始を制御する重要な酵素です。細胞周期制御が異常となったがん細胞では、CDC7活性の阻害により複製ストレスが誘導され、細胞死に至ることが知られています。一方で、正常細胞では細胞周期チェックポイント機構が維持されていることから、CDC7阻害の影響を受けにくいと考えられており、良好な忍容性を有する新たな治療薬となることが期待されています。

CDC7は様々ながんで過剰発現していることが報告されており、CDC7阻害によりDNA複製ストレスが誘導され、がん細胞の増殖抑制や細胞死につながる新たな治療アプローチとして注目されています。さらに、非臨床試験において、monzosertibはDNAメチル基転移酵素 (DNMT) 阻害薬およびBCL-2阻害薬との併用により強力な抗腫瘍活性を示しており、既存治療に対する耐性克服や治療効果の向上につながる可能性が示唆されています。

カルナバイオサイエンスでは、高選択的CDC7阻害剤monzosertibの創製に成功しており、急性骨髄性白血病 (AML) を主対象として、革新的な治療薬の開発を進めています。